

しんろ

## 情熱を胸に、挑戦を続ける

福島県知事

**内堀 雅雄**

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

私は、去る10月28日の知事選挙におきまして、多くの県民の皆様への御支持を頂き、引き続き県政を担わせていただくことになりました。この選挙期間中、県内59市町村をくまなくまわり、復興を求める切実な声、県政に対する様々な思いを伺いました。そうした皆様の期待を胸に刻み、福島未来を切り拓くため、これからも全力で取り組んでまいります。

福島県は、地震・津波・原発事故・風評被害という未曾有の複合災害からの復興と急速な人口減少・少子高齢化に対応するための地方創生という、困難な課題を抱えております。このような課題にしっかりと向き合うため、常に危機意識を持ちながら、これまでの挑戦を更に進化させなくてはなりません。

まず、避難地域の復興・再生につきましては、被災者の生活再建や生業の再生、廃炉・汚染水対策、医療・介護提供体制の構築、学校の再開、公共交通ネットワークの構築、さらには鳥獣被害対策など、安心して帰れる環境づくりを進めてまいります。

併せて、福島イノベーション・コースト構想に地元企業等の幅広い参加を頂きながら具体化を更に進め、再生可能エネルギーやロボットを始めとする新産業の創出・集積や農林水産業の再生など、浜通り地域の産業基盤の回復にしっかりと取り組み、ここで生み出された活力を、全県に広げていくとともに、商工業を始めとした既存産業の振興につきましても、人材の育成や確保はもとより、異業種とのコラボレーションやデザイン・ブランディングの強化など、産業の足腰を強化するための支援を行ってまいります。

次に、人口減少対策であります。人口は地域の活力であり、減少幅を抑えるためには、定住・二地域居住を進めながら、子育て世代や若者が安定的に生活できる雇用の場を確保するとともに、安心して結婚・出産・子育てができる環境を充実させることが重要です。18歳以下の医療費無料化の継続や待機児童対策はもとより、「本物で学べるふくしまづくり」を基本に教育環境の整備を行うなど、総合的な施策を講じてまいります。

また、医療・福祉・介護の人材確保・育成や全国に誇れる健康長寿県を目指す取組を引き続き積極的に進めてまいります。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、本県は聖火リレーのスタート地に選ばれるなど、復興五輪の非常に重要な役割を担うことになりました。選手村等への県産食材提供を目指す農林水産物のGAP認証取得や、大会で活用を目指す再生可能エネルギー由来の水素を製造する拠点整備を進めるとともに、これまでの御支援に対する感謝の思いと、復興が進んでいる福島を国内外に広く発信できるよう、関係の方々を合わせて準備を進めてまいります。

県民の皆様、そして福島を応援して下さる全ての方々と「共働」しながら、挑戦を続け、生まれて良かった、住んで良かった、来て良かった、とだけ思っただけの県づくりを進めてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。